

レポート・論文を書く前に

～研究倫理について考えよう～

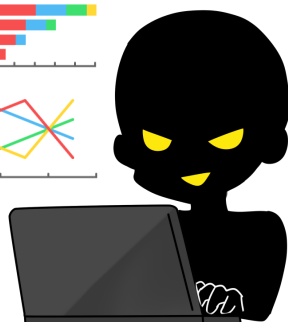
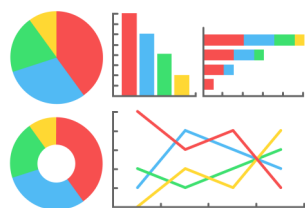
例え、授業の課題・レポートを書く場合でも、学術に関わる文章を書く場合には、“研究倫理”に従う必要があります。関わる全ての人々が“研究倫理”に基づいた公正な行動をすることが、学術の継続的な発展には必須なことです。



もし誰か一人でも不正な行為を行い、そこで作成された情報が真偽不明のまま伝わっていくと、“正しいこと”がわからなくなってしまいます。

研究における不正行為とは

1.捏造 存在しないデータをでっちあげること



レポートの信ぴょう性を高めるために、適当に作った嘘の表とグラフを載せちゃうぜ

2.改ざん データを意図的に変えること



何度実験しても思い通りのデータが出ないから、数値を書き換えてしまえ

3.盗用 他人の著作物を盗んだり無断で使ったりすること



いい文章だから、自分が考えたこととして論文に使わせてもらおう

ルールが守られていないものはパクリ・盗作と疑われ裁判沙汰にも……研究成果も信頼も失います。

盗用にならないために～引用のルール～



レポートにぴったりの資料を見つけたけど、この文章をレポートに使ったら盗用になってしまうんじゃないかしら……

『ルールを守れば』他者の文章でも自分のレポートや論文にとり入れることができますよ。



どんなルールなの？

- 1) 引用文には「 」をつけるなどして、引用だとわかるようにすること。(1.2行程度の場合)
- 2) レポートや論文は自分の文章が中心。引用文は補足や根拠を示すために使うこと。
- 3) 何から引用したのか、出典(出所)がわかるようにしておくことです。



出典の明示

引用や参考にした資料については、なんという資料のどこから引用したのか、分かるように明記します。



引用の例：

＜このパンフレットの参考文献＞

・眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也編著 『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』

著者名

本のタイトル

慶應義塾大学出版会

(2015.10)

50-55ページ

出版社

出版年

ページ数



出典の明示の仕方は、参考テキストによって異なります。先生からの指示があれば、指示に従った明示をしてください

もっと詳しく知りたい方は

- 『コピーと言われないレポートの書き方教室』
山口裕之著 開架図書(2階) 816.5//Y24
- 『学術論文のための著作権Q&A』
宮田昇著 開架図書(2階) 816.5//Mi84

図書館ホームページ情報リンク集

(<https://libopac.josai.ac.jp/search/infolink.htm>)
には研究倫理e-ラーニングコースや著作権情報のサイトを掲載しています

城西大学でのAI・生成AIの利用について

AIは教育や研究、あらゆる学びでの作業効率化が考えられます。そして、2022年の生成AIの利用が可能となってから今日までの約4年の間、AI技術は日々急速に進歩しています。AIや生成AIは私たちの生活やビジネスシーンにおいて広く活用されていくと予想されることから、「使用する」、「利用しない」という判断ではなく、「AIをどのように利用するか」の新しい時代となっています。

入力するデータの内容や生成物の利用方法によっては、法に違反したり、他者の権利を侵害したりする可能性があります。

生成AI利用の注意点

特に生成AIの利用についての注意

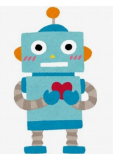
例えば、生成AIが作り出す物をそのまま学修成果とすることは、「自ら調べ、考え、検証する」などの大学での学びに反することとなります。



以下の3点を確認し、生成AIの特性を十分に理解した上で利用しましょう。

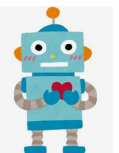
★結果の検証の必要性

生成AIによって生成された情報は完璧な結果を保証するものではなく、誤った内容が含まれている可能性があります。他の資料など、複数の情報源や根拠を調べて、生成AIが差し出す回答で判断するのではなく、自分でその正確性や適切性について確認するようにしてください。



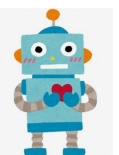
★情報の適切な管理

生成AIへの情報の入力を通じて、情報が流出・漏洩・拡散する可能性があります。個人情報等の機密性の高い情報など、外部に公開してはならない情報を取り扱わないようにしてください。



★他者の権利への配慮

生成AIへ情報を入力することや、出力された生成物を利用することが、著作権、登録商標権、登録意匠権などの侵害にあたる可能性があります。他者の権利を侵害することがないか、確認する必要があります。



レポート課題で生成AIを使う場合

授業や調べもので生成AIは大いにその力を発揮します

- ・ 授業や課題で利活用する場合は、担当教員の指示に従い、許可された範囲内で使用してください。
- ・ 指示がない場合でも、レポートや課題等で生成AIを使った場合、使用した旨と、使用の範囲を明記し、そのことが誰にでもわかる形にしてください。
- ・ 生成AIを使用したにもかかわらず、使用した旨と、使用の範囲を明記していない場合は、不正行為と認定される場合があります。

情報は正しく倫理的か？ハルシネーションではないか？

ここでいう「使用の範囲の明記」は、使用した生成AIの種類、入出力の内容、それがなされた年月日時間の明記など、あとから検証できる使用条件等を含むものです。

生成系AIは学習データにもとづいて出力を生成するため、ハルシネーションを起こし、必ず正しい情報が出るとは限りません。

生成された情報を鵜呑みにせず、「この回答はこのままでいいのか、正しいのか」と一度振り返り確認しましょう。

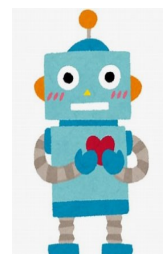
利用許可申請が必要な情報ではないかな

著作権に触れないかな

チェック！

ハルシネーションではないかな

調べやすい
分かりやすい
フロンストをお願い



AI「Artificial Intelligence（アーティフィシャル・インテリジェンス）」

AIは、「人工的に作られた知能」のことです。

これまでのコンピュータ処理と大きく異なる点は、自己学習能ができることです。

つまり、人間が経験を積んで知識を蓄積するように、AIも自ら学習することで知識をさらに広げていくことができるのです。

AI技術はこれからも日々着々と進化を進めていきます。

そして、なんと！

AIという言葉はずいぶん昔に生まれていました。

1956年にダートマス大学（アメリカ）で「ダートマス会議」が行われ、「人間の知能を機械によって模倣し、機械が人間のように思考や問題解決を行えるようにする」などの議論がなされました。

ここで、はじめて「AI」という言葉が生まれたのです。

2026年現在AIはどんな分野で使われているのでしょうか

- 音声認識：Siri、Alexa、Google Assistantなど
- 自然言語処理：自動翻訳、チャットGPTなど
- 金融業界での株価予測、不正取引検出
- 医療業界での疾患予測、診断支援
- 教育分野でのオンライン学習支援、学習成果の分析
- 製品の品質管理、欠陥の検出
- 広告配信・顧客分析・戦略などのマーケティング
などなど……

図書館のカウンターでも相談を受け付けています。